

高槻名誉市民を

18号

語り継ぐ会会報

平成27年10月1日

9月28日の高碓達之助編第六回講演を持って、平成27年の「名誉市民を考える会講演」を無事終えることが出来ました。4月からの磯村彌右衛門編計6回、7月からの高碓達之助編計6回、延べ300名弱の皆様に参加して頂きました。高碓達之助編では現職の東洋製罐グループ HD(株)社長、中井社長様にも講演を頂き、身内から見た高碓達之助の側面を知ることが出来ました。これも一重に皆様のお蔭です。事務局一同厚く御礼申し上げます。
10月以降は新しい企画で、名誉市民を語り継いでいきます。これからもよろしくお願ひします。(馬淵)

【高碓達之助講演第五回、六回の要約】

第五回『政治家としての高碓』(9月14日)

バンドン会議が「アジア諸国の相互理解」と「平和共存」を求めて開かれました。翁は「日本代表として出席したバンドン会議が私の一生の転換をせしめた。政治に興味を持ち、外交に興味を持つようになったのはこのバンドン会議であったのだ」と述べられています。翁の功績であるLT貿易は、日中間の政治、経済両面の関係を正常化し、やがて国交正常化に道を開く重要な礎石となりました。



第六回『日ソ漁業交渉と、高槻と高碓の関わり』(9月28日)

日ソ漁業交渉は、病気を押しての命がけの壮烈な戦いでした。「日本の水産業を支える底辺に、この人たちの幸福なくして、何の水産日本なものか」との思いで交渉されました。翁には東京と高槻に秘書がいました。高槻の秘書が鈴木定次郎(第6代、7代高槻市長・府会議員)であり、鈴木を通して高槻に大きな関わりを持たれました。高槻の誇りであり、偉大な企業家で国際政治家であった高碓翁は1964年逝去されました。

【新規「名誉市民勉強会」】 受付事務局:村上(携帯:070-5677-3108)

9月まで宇津木先生に語って頂きました内容を、もう一度記録ビデオなどで学び直す事を目的とした勉強会を始めます。宇津木先生の講演で名誉市民に興味を持たれた方にお集まりいただき、各自お互いの学んだことを発表し学習する会です。月に2回ほど行います。

日時:10月12日(月)15:30~17:30

場所:クロスパル高槻第5会議室

内容:宇津木著「荘川桜ものがたり」を読み合わせ、各人の思いを……。

会費:¥300-(お茶代)

宇津木先生より、童話「荘川桜ものがたり」初稿の贈呈を受けました。

(勉強会参加者の方には当会より進呈)

これは「高槻市民に高碓翁を語るにしても、生活に忙しい若い主婦や、小学生でも特に低学年の子供に向けてならば、この桜の巨樹を湖底に沈めず、移植させた高碓翁の住民思いの話が最適では」との思いで作られた初稿で、当会に贈呈されたものです。我々はこの物語に書かれている想いを高槻市民、特に学校関係に説明できればと考えています。今後、製本・CD(朗読化)などを計画していますのでご利用ください。

【第11回たかつきNPO協働フェスタに参加】

高槻市市民公益活動サポートセンター主催のフェスタが9月12日(土)高槻市総合センター1階で開かれ、当会も展示会に参加いたしました。当会の活動をもっと高槻市民の皆様知って頂けるように、今後もこの様な展示活動を続けていきます。



【放課後子ども教室“にこにこ広場”でのお話】

西大冠小学校校区放課後子ども教室運営委員会主催で、毎月子どもの放課後の教室として開かれております。当会も高槻名誉市民について地域の子供たちに関心を持っていたかどうかの思いで、『高槻の歴史「こんなすごい人いてませ!!」』と題してお話をさせて頂きます。

日時:11月4日(水)15:15~16:45

場所:西大冠コミュニティセンター

【新規会員募集中】

会の活動にご賛同いただける会員を募集しています。

年会費 2,000円です。

是非ともご登録をお願いします。

発行:高槻名誉市民を語り継ぐ会
ブログ

http://blog.livedoor.jp/takatsu_kimeiy05/

FB

<https://www.facebook.com/groups/167866516706202/>



高槻市 マスコットキャラクター『はにたん』

裏面に磯村彌右衛門講演第四回・五回の概要を掲載しています

【磯村彌右衛門第四回講演】の概要

1) 高槻町の結成

当時地方自治体は楽な運営をしている訳でなく、もっと展望が持てる市町村の確立のための合併が検討されていました。高槻町合併問題は高槻町や芥川町、清水村などからの「大冠のような貧乏村と合併したら大冠のために金を出すようなもの」との声もあり合併への道のりは大変でした。彌右衛門は苦勞の末、各町村の意見をまとめ上げ昭和6年1月1日に高槻町を誕生させました。合併記念に飛行機を飛ばして5,000部の5色のビラを撒きました。

そのビラ【黄色ビラ】には山紫水明の大高槻と書かれており高槻八景を愛でる内容が書かれていました。高槻八景とは上宮天満宮の花雪、能因塚の翠煙、本山寺の秀碧、神峯山寺の靈鐘、摂津邪馬溪の鳴琴、芥川堤の香霞、八丁松原の龍影、淀川の晴虹です。



上宮天満宮



摂津邪馬溪



八丁松原

2) 府議会での活躍

昭和6年の3期目府会議員選挙に立候補して当選しました。

①議会で一番力がある特別予算委員長にも就任し、大阪市より高かった電気料金を府議会で問題にして電気料金の低減に努力しました。

②昭和5年に枚方大橋が開通しましたが、枚方大橋から八丁松原までの立派な道路はありませんでした。府の公共工事のやり方として、道路を受益者負担で行うという方針で有ったため、高槻町議会に諮りますが、道路に関係ない村は賛成しませんでした。そこで彌右衛門は大冠村で「頼母子講」を作り、それを寄付するという方法を取りました。それと同時に彌右衛門も個人負担を行い、ようやく八丁松原から枚方までの道路が拡張されることになりました。

3) 新庁舎建設

それまでの庁舎は木造で狭く、書類も机の上に積み上げるような状態で、JR駅の南側に新しい庁舎を作ることになりました。彌右衛門は新しく建った医大や科学研究所の様なモダンな建物にしたいと考え、3階建てを計画していましたが、国は2階建ての起債しか認めませんでした。そこで彌右衛門は住民から寄付を集め、国には内緒で3階建にしてしまいました。



高槻新庁舎



大阪高等医学専門学校

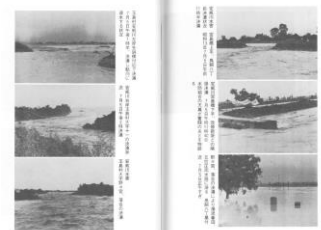
第4回記録ビデオ(ダイジェスト版)はこの URL でご覧になれます。 <https://realtimes.real.com/s/UgGIDW>

【磯村彌右衛門第五回講演】の概要

1) 府議会議長として

府議会において議長になり第一番にやったのは淀川修補工事を主張したことです。

昭和13年に「阪神大水害」が起こり、この時淀川堤防各所に於いて漏水が起こり堤防のノリが崩れました。この為7月20日の臨時府議会に「淀川堤防補強工事施工に関する意見書」を上程し採択されました。これを皮切りに、議長の立場を利用して政府に陳情団を出して、昭和14年～昭和30年まで続く淀川補修工事に係りました。戦争中は大蔵省が軍備に金が必要とし、淀川補修等は相手にしませんでした。「戦争で淀川が切れたらどうなるか。大阪はどうなると思う。それで戦争ができるか」と主張し、陳情団を派遣し、予算を獲得し補修工事を難航しながらも続けさせました。次に、大阪京都間に産業道路(現在の府道14号線)を作る計画が有りましたが、吹田で鉄道建設が有り道路工事が遅れていました。これを彌右衛門は怒り強硬突破させると共に、茨木から西の方向に走らせることを考えました。これが今の国道171号線で、実際に開通したのは戦後になってからです。



昭和13年安威川の決壊状況

2) 高槻市の誕生

高槻町は発展し、昭和17年には人口32,700有余人、戸数6,663に達し、市街地の適応をうけ衛星都市としての実績もあり、昭和17年10月1日町会は満場一致で市制施工を決議しました。昭和18年1月1日を期して高槻町を廃止し高槻市市政開始の告示がされました。彌右衛門は第1回市議会で市会議長に推薦され、その市会で満場一致で市長に推薦されました。市会議長で市長になれるという法律は日本にはありません。そこで知恵を絞って、名誉市長と言う考えを生み出しました。

議会で名誉市長条例を制定して、彌右衛門を名誉市長として指名推薦し、全国に例のない市会議長兼市長が生まれました。

第5回記録ビデオ(ダイジェスト版)はこの URL でご覧になれます。 <https://realtimes.real.com/s/SK1JxW>